

活用するスマート農業技術

栽培管理システム

新たな生産の方式

データを産地内で共有し、次期栽培に活用

水稲において、栽培管理システムから得られたデータ（地力、生育状況など）を産地内の農業者と共有し、そのデータと比較しながら次年度の栽培管理を改善する。

<申請者>

株式会社 耕成（山形県東根市）

経営概況（2026年3月時点）

経営規模：水稲41ha、アウトウ15a、
ホウレンソウ15a

従業員数：5名

<対象品目>

水稲

<計画の実施期間>

5年間

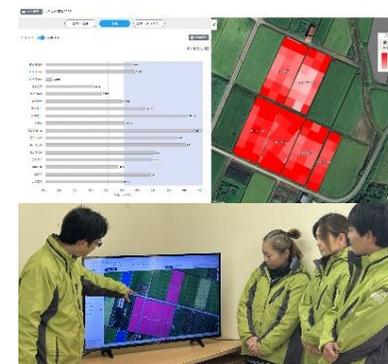
<活用予定の支援措置>

補助事業の優遇措置

<生産方式革新事業活動のイメージ 等>



株式会社 耕成 の皆様



栽培管理システム（KSAS）

～認定を受けて一言～

弊社は、気象状況が変化する中での規模拡大を見据え、産地内の農業者とデータを共有し、品質向上と収量の安定化を今後も追求してまいります。また、ほ場データを蓄積・分析する事で、スタッフが短期間で栽培技術の習得ができるよう活用していきます。スマート化が地域全体で浸透するための一翼を担っていく所存です。